

田舎だから
舎でも

Tottori Nichinan
Create Yama-Zato Life

鳥取県 日南町



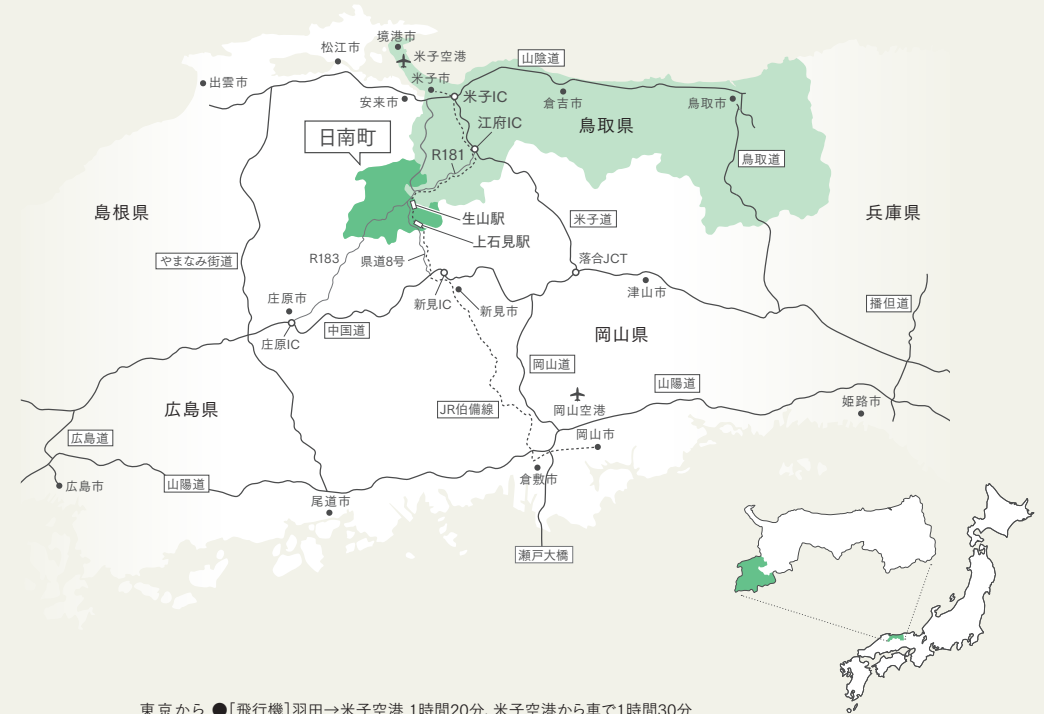
Yama

Zato

Bito

自分らしく

鳥取県 日南町



- 東京から ●【飛行機】羽田→米子空港 1時間20分、米子空港から車で1時間30分
- 大阪から ●【自動車】中国自動車道→米子自動車道 江府IC下車、R181で3時間30分
●【JR】新幹線で新大阪駅→岡山駅50分、岡山駅から伯備線特急やくも生山駅下車で1時間30分
- 岡山から ●【JR】伯備線特急やくも生山駅下車で1時間30分
- 広島から ●【自動車】中国自動車道→庄原IC下車、R183で2時間30分
- 福岡から ●【JR】新幹線で博多駅→岡山駅1時間45分、岡山駅から伯備線特急やくも生山駅下車で1時間30分

お問い合わせはこちらまで

一般社団法人 山里Loadにちなん

TEL.0859-82-1715

〒689-5211 鳥取県日野郡日南町生山153番地2(JR生山駅舎内)

営業時間:午前8時15分～午後5時 定休日:年末年始

E-mail : info@load-nichinan.jp

https://www.load-nichinan.jp/

移住・定住に関して詳しくはWEBサイトをご覧ください。

まるごとバンク

https://www.nichinan-life.jp



自分らしく、Createする

鳥取県日南町、中国山地1000メートル級の山々に囲まれた自然豊かな田舎町

車は必須、雪も多く、寒さが厳しい地域ですが

ネット社会の今、情報や物品に困ることはほぼありません

田舎暮らしに大切なことは

「自分にとって大切なことを見つけること」、「地域と暮らすこと」

全国各地から多くの方が日南町に移住し

自分らしい暮らし方、生き方をCreateされています

Contents

移住者インタビュー

坪倉 万葉 さん Mayo Tsubokura ダンスインストラクター P.3

井上 浩一 さん Kouichi Inoue ドッグカメラマン P.7

本松 彩実 さん Saimi Motomatsu hair & eye Feluce P.11

小菅 良豪 さん Yoshitake Kosuga

高木 康平 さん Kohei Takagi 日南町立林業アカデミー専任教員 P.15

日南町の生活圏 P.19

空き家バンク・移住支援・環境 P.21

母として、
ダンス指導者として—
地域の中で成長できた



「東京から引越してきたのは確か1月末でした。ちょうど大寒波が来ていて大雪で…。すごい所へ来ちゃったぞと思いましたね。周りに家が無いし」

最初の冬の衝撃を思い出して笑う、坪倉万葉さん。日南町にUターンしたのは2016年。自身は新潟県の佐渡島で生まれ育ったが、東京で働いていた頃に出会って結婚した相手が日南町の出身だった。入籍直後、ご主人のUターンに同行する形で移住したのだ。移住とほぼ同時に一人目のお子さんを妊娠、出産。現在は二人のママとして子育て奮闘中であると同時に、町でただ一人のダンスインストラクターとしても活躍。ストリート系ダンスを中心に、小学生から高校生まで約30人の地元っ子にダンスを教えている。東京では10年近くダンスに関わる仕事をしていた。ミュージシャンのバックダンサーをし

したり、レッスンをしたり。華やかで、若者が憧れる世界だ。子どもの頃からダンス好きで、この仕事を続けたいと願いながらストイックに休みなく働いていた。

しかし、結婚したことで考えが変わった。「東京で子育てするイメージが全然わかなかったんですね。都会は働く場所としか考えられなかった。仕事し過ぎで疲れていたこともあって、心機一転、地方暮らしをしようと決めました。ダンスは東京じゃなきゃできないと思ったのでスッパリ辞めて、移住したら別の仕事でのんびり働くつもりで…。そう、田舎にはスロライフがあると信じていたんですよ(笑)」
ところがいざ移住してみたら、現実はず想像を裏切った。こんなにも若者が少ないのか。病院も何もかもこんなに遠いのか。こんなにやることが多いのか…。

坪倉 万葉さん

Mayo Tsubokura

ダンスインストラクター。新潟県佐渡市出身。幼少期からジャズダンスを習い、その先生が台湾人だったことから高校卒業後は台湾へ1年留学。帰国後は東京でダンサーとして活動し、29歳で結婚を機にご主人の実家がある鳥取県日南町へ移住。令和4年現在、6歳と1歳の二人の子育てをしながら、地元のダンス教室で地域の子どもたちに指導している。ご主人はUターン後に就農し、現在は日南トマトの専業農家。万葉さんも時々農作業を手伝う。





「阿毘縁という地区で、主人の実家の横の長屋を改装して暮らしていますが、周りの住民は親世代よりも上の年配の方が多くて、最初は困惑しました。子育て支援センターに行くようになってからはママ友ができましたけど。あと移住して思い知ったのは…とにかく忙しい！みんなアポ無しで用事を言ってくるし、都会のように便利なサービスが無いから家事でも何でも自分でやらなきゃいけないことばかり。毎日保育園の送り迎えに山道くねくね片道15分とか、どこへ行くにも車が必須で、遠くて移動に時間がかかるぶん自由な時間が減ります。おかげで、時間のありがたみを感じるようになりましたね」

カルチャーショックが続く中、嬉しい想定外もあった。朝の澄んだ空気や、夕暮れの空の色。四季折々の野山の美しさには目を見張った。子ども達と近所を散歩し、秋には栗を拾ったり



(写真左)アシスト日南の西村社長



(写真)にちなん十色 山の上分園(こども園)



アケビを採ったり…。たまに手伝う畑仕事で、豊かな恵みへの感謝も芽生えた。

そして、ある出会いが万葉さんの生活を変えた。ダンスを再開するチャンスが無い込んだのだ。

「二人目を出産してしばらくした頃、イベントの企画運営をしているアシスト日南の社長から、子どもたちにダンスを教えてくれないかと依頼がきました。最初はミュージカルの指導でしたが、それが発展してNDS（にちなんダンススクール）を開講することに。意外な展開で驚いたけど、すごく嬉しかったですね。またダンスできる嬉しさも、外に出るキッカケができたという喜びです。多くの人と接点ができ、交流が広がりました。社長には感謝しかありません」

まさに万葉さんのために準備されたような「役割」にピタリとハマリ、ダンスインストラクターとして地域になじんでいった。その指導に

あたっては、譲れないポリシーがある。

「やるからには本気。こんな田舎でも本格的にダンスをやれるんだよと堂々と語るレベルが目標です。東京では技術の向上だけ目指すスパルタ式でしたけど、今は違う。子ども達の様子を見ていて人間関係や家庭のことまで気になる。一人一人を丁寧にサポートしてあげたいなって思っただけでいい感じになりました。これって田舎ならではの感覚なのかな。自分も母親になって少し成長したのかも」

ダンスに対する万葉さんの想いや踊る楽しさ、子ども達への愛情はしっかりと伝わっているのだろう。ある地元の小学生から、「ダンスが楽しい。将来は先生みたいな人になりたい！」という声もあった。

「嬉しいですね。自分の仕事子ども達の元気につながっていることがやりがいになってます。ここに来て良かったなって」

好きなことを仕事にしながら、地域の役に立っていると感じられる幸せ。不便や不安も当然あるけれど、ここなら自分らしくやっているとこの手応えを、今は感じている。



(上記写真) 井上さんの作品 ©Kouichi Inoue



犬と家族、
地域の人の幸せを撮りたい —
移住して、
被写体の幅も広がった

「犬本来の自然な姿を撮りたい。私が大切にしているのは、飼い主様だけではなく犬が喜んでいる写真を撮ることなので、彼らがのびのび駆け回れる田舎に住みたいと考えていました」

そう語るのは、カメラマンの井上浩一さん。元々は実家がある西宮市内で別の仕事をしてきたが、独学で写真を学び、40歳の頃にフリーランスとして独立した。以後10年、地元のみならず川周辺の公園などで犬の撮影を専門に活動していた。

「でも都会では、犬と飼い主と一緒に遊べる撮影場所を見つけるのが難しい。だから丹波篠山市や三田市への移住を目指していたんですが、いい物件が見つからず…そんな時、日南町を紹介してもらったんです」

ご縁を繋いでくれたのは、憧れの動物写真家、福田幸広さんだった。ワンボックススカパーで車中泊をしながら全国各地で野生動物を撮影するというスタイルに惹かれ、「自分もそんな風にやりたい」と願っていた井上さん。まさかその夢がいきなり叶うとは…。

「写真集にサインをもらったとき、思いきって夢を伝えました。そうしたら福田さんが当時乗っていたライトバンをタダで譲ってく

れたんですよ！奇跡ですよ。そして日南町を薦めてくれました。地元の人がとても親切だし、大自然の中で撮影したいなら凄く良いよって。福田さんはオオサンショウウオの撮影で日南町に通っていたので、地域の魅力をよくご存じだったんですね」

善は急げと早速役場に行って空き家バンクに登録し、家賃が一番安い物件で即決。犬と一緒に移住でも、役場が大家さんとの仲介に入ったことでスムーズに進んだ。

「実際の暮らしは、夜道の暗さや冬の寒さ以外には特に不便と感じません。カメラの仕事はそれまでの経験でお客様のニーズや呼び込み方の勘所は掴んでいたもので、いけるはずだと期待していました」。

井上 浩一 さん

Kouichi Inoue

カメラマン。兵庫県西宮市出身。独学で写真を学び、犬専門のカメラマンとして地元での撮影会を中心に10年間活動。大山を擁する鳥取県の大自然の中で犬と家族の写真を撮影していこうと決意し、2019年、愛犬の永遠（ゴールデンレトリバー）と苺（コーギー）を連れて日南町へ移住。「犬も家族も自然な表情を撮る」をテーマに撮影サービス「まるまるフォト」を個人で開業。狗賓ホテルを活動拠点として犬の撮影を行うほか、旧日野上小学校にもスタジオを構える。2022年からは七五三等の出張撮影なども行い、仕事の幅を広げている。

「移住当初は自分の仕事のことばかりでしたが、今では交流の時間も多いです。最近では移住者どうしの意見交換会にも参加して、半分カメラマン・半分農業みたいな生き方もできるよって教えてもらったりして、それいなくなってる。いま土いじりが楽しくて、中古の耕運機を買っちゃいました。人間関係含め、都会にいた頃よりも心地よく生活できますね」

実体験で知った田舎の良さ。景色や開放感、温かい人情。都会では出来ない一日の過ごし方。ここだからこそ体験できる、犬が喜び人も喜ぶ撮影会やフォトツアーを提供するのが井上さんの夢になった。

「古民家で地元の人たちと触れ合いながら、裏山へ犬を放して遊ばせてあげたり。ゆくゆく



(写真) 井上さん提供写真 ©Kouichi Inoue



(写真) 井上さん提供写真 ©Kouichi Inoue

くは自分のペンションをもって、星を眺めながら犬と泊まっていたきたい。それができたら最高ですね！」

自分を日南町に繋いでくれた「恩人」福田さんの言葉が、今いっそう胸に染み入っている。「二人では生きていけない。地元の方を一番大切に生きて行きなさい」と。

「犬の撮影だけじゃなく、地域の方の役に立ちたい。日常の何気ない姿を撮影して、離れて暮らしている都会のお子さんに送ってあげるのもいいかもしれない。写真で何か恩返ししたいです。旅行客相手のフォトツアーでも、例えば地元の人と一緒にそば打ち体験をしたり、交流を混ぜていっても面白い。少しずつ、そんなこともやっていきたいですね」



関東なら八ヶ岳や山中湖あたりで犬のレクレーションの場所や一緒に泊まれる施設もありますが、関西にはあまり無いんです。だから関西からの旅行客を取り込めるはずだ」と見込みは当たり、それなりに仕事はあった。顧客のメインは旅行客で、被写体は犬。しかし徐々に考え方が変わってきたという。きっかけは、2020年に地域振興センターから依頼されて開催した写真展だった。

「近所のおじいちゃん達が畑にいるところの写真を撮らせてもらい、写真展で飾りました。90歳のおじいちゃんのしわくちゃの笑顔。普段の姿や自然な表情がめちゃくちゃ魅力的なんですよ。僕自身それに気付けたし、写真を贈ったらとても喜んでくれました。写真展は、地元の方々に僕を身近に感じてもらう接点になったんです。それ以来、もっと地元の方の写真も撮っていいこうと思いはじめました」

地域との関係が変わったのには、新型コロナウイルスの蔓延も影響した。仕事場のホテルが旅館になり、家にいる時間が増えたことで地域内のコミュニケーションも増えたのだ。畑の手伝いや草刈り。ご近所さんに色々教わりながら自宅の庭を畑にして野菜を栽培。自給自足の喜びも知った。



(写真) 井上さん提供写真 ©Kouichi Inoue





この町だからできた、
仕事と子育ての両立。
ふるさとで
“幸せと輝き”をサポート



美しくなることは、心を潤わせる大切な営み。本松彩実さんは、髪とまつ毛に関わる美容の仕事に10年以上携わり、2020年からふるさとである日南町で、ヘアケアとまつ毛エクステ（人工まつ毛）の専門サロン「Feluce（フェルルーチェ）」を経営している。

まつ毛ケアを中心に幅広いメニューが重宝され、今では地元住民だけでなく、町内でも30分以上かけて通う方や、米子市や新見市（岡山県）から訪れるお客もいるそうだ。

「ここは日南町じゃないみたい、と言っていたこともあります。日常を忘れてときめく時間、ホッとできて美しくなれる場所があることって、すごく大切ですよ」

米子市の美容専門学校を卒業後、美容師として7年ほど働いた後、当時流行していたまつ毛ケアの道に入った。鳥取市へ移り、まつ毛エクステ専門店に働いていた頃にパートナーと出会い結婚。ご主人の転勤で一度は鳥取を離れ和歌山で専業主婦をしていたものの、「やっぱり仕事したい」と米子市へ帰ってきた。

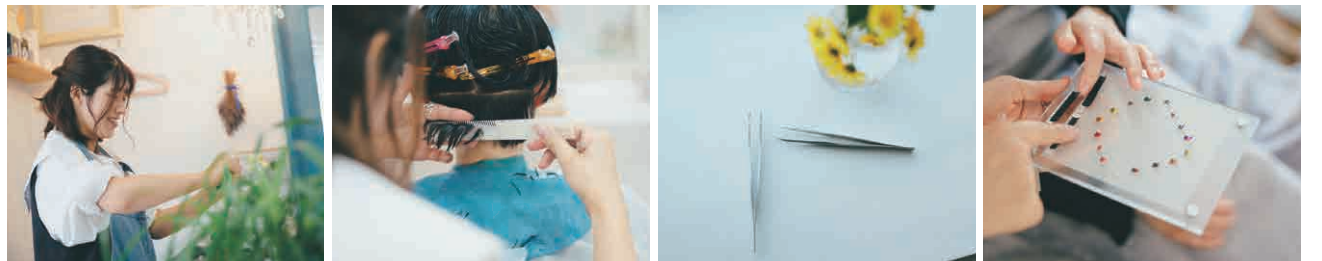
「自宅でサロンを開業するなら、よく知っ

ている米子がいい。そう主人に相談したらOKしてくれたので、頑張ってみようと思えました。実は当時、占いにハマってて…家庭運が良いから家で仕事しなさいって言われていたので迷いもありませんでした（笑）。自宅アパートでまつ毛エクステのお店をやっていました。1年ほどで妊娠。子育てと仕事を両立させるには、家族の助けがある実家の方がいいなと思って日南町に帰ることにしました。主人の勤務先は安来（島根県）だから遠くなるんですけど、それでもいいよって言うってくれて。いつも応援してくれる主人には感謝しています」

本松 彩実さん

Saimi Motomatsu

髪とまつ毛のトータルサロン「hair & eye Feluce」の経営者であり施術者。日南町上石見出身。米子で美容師として働いた後、鳥取市でまつ毛エクステ専門店に転職。鳥取市でパートナーと出会い結婚、ご主人の転勤により和歌山で半年暮らした後に夫婦で米子市へ移住。自宅でまつ毛サロンを経営していたが、出産を機にふるさと日南町へUターン。一人目のお子さんが1歳になる頃に現在の店をオープンした。令和4年現在、3歳と1歳のお子さんのママ。





多くの人の役に立てるようにと、ヘアやまつ毛にこだわらず施術のバリエーションを増やしていると考えている。

「こうやって仕事に打ち込めるのは、保育園から帰ってきた子どもの面倒をおばあちゃんが見てくれているのが大きいですね。近所に子どもは少ないですが、弟家族が斜め向かいに住んでいて、甥っ子とは保育園も同じ。毎日一緒に、おばあちゃんに子守してもらって遊んでいきます。家族だけでなく近所の皆さんの優しさにもすごく助けられていて、私が子どもの頃に見てもらっていたのと同じように、地域の子どもの大事にしてもらえるから安心できる。生まれ故郷の良さを感じます」

子育てがしやすいよう、行政サポートが充実しているのは日南町の魅力の一つだ。保育料を無償化しているほか、在宅育児を行う世帯への



(写真)にちなん十色 石見分園(こども園)

補助金もある。また同町には、町内で起業したり事業承継に取り組もうとする人をサポートするチャレンジ企業支援という制度があり、本松さんの場合は、実家の一部をサロンに改修するための大きな後押しになった。「この制度のおかげで開業を決断できました。子育て支援が手厚いこともすごく助かるし、実家が日南町で良かった」

自分も地域の一員だという気持ち芽生え、仕事のモチベーションにも繋がっている。

「近所の美容室をやっている80代の先輩たちがいつか引退されたときに、地域の皆さんは行くお店がなくなってしまうって、わざわざ米子まで出かける必要がなくなったら大変です。だから私がここでサロンをやることで、皆さんの助けになりたいという気持ちで今では強くなりました。年上のお客様が多いので、子育ての相談に乗ってもらったりして、私も助けられていますよ。お客様に元気や勇気をもらっています。ありがたい環境だなとしみじみ思います」

日南らしい、温かい思いやりの循環が生まれている、『幸せと輝き』（『フェルルーチェ』という名のサロン。

ふるさとの人を輝かせたいと語る彼女自身が、キラキラと輝きを放っている。

ご主人は福岡県出身のＩターンですが、都市部ではなく田舎育ちだったため、日南町を初めて訪れた時から心地よさを感じていたそう。そして実際に住んでみて、やっぱりとても気に入った。本人曰く、「住民の皆さんが交流イベントや飲み会に積極的に誘ってくれて、地域になじみやすかった。あつという間に居場所ができて仲間が増えて、今では釣り友達がたくさんいるし、野球チームに2つも入ってます(笑)」とのこと。よそ者を受け入れる温かい土地柄は、移住者にとってありがたい。

働きながら子育てをする難しさを解決するために選んだ、実家でのサロン開業。しかしオープン当初は、「そもそも住民さんにはまつ毛エクステを知らない人も多いだろうし、本当にここでやっていけるのかな」と不安だった。

でも予想は良い意味で裏切られ、現在はお客様も増えて評判も上々だ。客層は50〜60代が多いが、さらに幅広い年代の人に来てもらって





日本一の
林業学校をつくりたい！
ドライに熱い、
山林の“守り人”たち

師走の森、凍みる寒さの中で、中学生らに枝打ちを教える姿。日南町立林業アカデミーの教員、小菅良豪さんと高木康平さんだ。

町が進める木育（もくいく）の一環で、この日は地元の中学生らを対象に林業実習を行った。

「木育とは森林教育のことです。わかりやすく言うと、森の応援団を増やす取り組み。幼児から小・中・高、大学生や一般の皆さんを対象に、森の中で活動することで森に親んでもらいます。一方で林業教育は、主に農業高校や林業系大学生を対象とした、担い手育成のための体験学習プログラム。林業アカデミーでは森林教育と林業教育の両方に取り組んでいます。子どもから大人まで体系的に学びの機会を提供しているのが特長ですね（小菅さん）」

林業アカデミーは、全国初の町立の林業学校とし

て2019年春に開校した。668haという日本最大級の演習林をフィールドに、実践重視のカリキュラムのもと、林業全般についての幅広い知識と技術を学べる。修学期間は1年で、定員10名の少人数制。全国から幅広い世代の学生を募集している。

小菅さんは、森の現場を熟知した林業研究者であり、アカデミー立ち上げメンバーの一人だ。30歳手前で広島県の森林組合に入り、作業員の仕事にやりがいを感じていたが、その一方で林業が抱える様々な問題点にも気付いた。それらを改善するための研究をしたと、作業員として働く傍ら社会人大学生として鳥取大学大学院へ。ちょうど学位を取った時、開校を控えたアカデミーから声がかかった。



（写真右）

小菅 良豪 さん

Yoshitake Kosuga

日南町立林業アカデミーの専任教員。滋賀県出身。会計事務所等で事務職を経験した後、広島県の森林組合へ転職。造林の作業員として11年間働く中で林業について問題意識が生まれ、社会人大学生として大学院で林業事業体の経営戦略の研究に取り組む。修士課程は鳥根県立大学、博士課程は鳥取大学大学院連合農学研究科で学び、農学博士の学位を取得。恩師の紹介で林業アカデミーの立ち上げスタッフとして参画。開校1年前から日南町の地域林政アドバイザーとなり、カリキュラム策定や学生募集などに奔走した。森林の現場を熟知する研究者・教育者として、次世代を担う林業従事者の育成に情熱を燃やす。

（写真左）

高木 康平 さん

Kohei Takagi

日南町立林業アカデミーの専任教員。岐阜県出身。森林の保全管理や砂漠の緑化に興味があり、鳥取大学農学部で生物学や生態学を学ぶ。日南町役場で3年間働いた後、JICAの青年海外協力隊員として南太平洋のソロモンへ派遣され植林の普及活動等に2年間取り組む。帰国後は岐阜県の森林組合での勤務を経て、2018年に鳥取大学大学院博士課程へ復学。林業アカデミーには2019年春の開校当初から生態学の講師として関わり、博士課程終了後そのまま就職した。勤務と併行して里山の保全管理についての研究を続けており、2022年度中に博士号を取得予定。



(写真)林業実習を手伝いに来てくれた臨時講師とアカデミーの生徒さん

事がなくなったら迷い無く出て行くかもしれない。それでも今、小菅さんの胸には「アカデミーを日本一の林業学校にする!」という想いが燃えている。この夢は日南町だからこそ描けた。「日本林業全体の発展に寄与したいと常に考えています。だからこそ大変なんですけど(笑)、ここは自分の能力が活かせる場所なので、頑張れています。忙しくて地域活動にはほぼ出られませんが、自分たちの専門領域、つまり林業の研究と教育で地域の役に立っていかうと割り切っています」そう語る小菅さんが目下取り組んでいるのは、基礎から最新の知見まで網羅した林業のテキスト制作だ。「どんな人が教員になっても質の高い林業教育ができるためのテキストです。林業は昔から『見て覚える』の世界で、怪我して辞めてしまうことも多かった。でも正しい知識を身につけたら防げる事故も多いんです。テキストが完成したら全国の



(写真)講義の様子



(写真)日南中学校の生徒を対象に実施された林業実習

関係者に広めて、日南町の林業アカデミーから日本一の林業を底上げするための発信をしていきたい」また高木さんは、「林業や林業従事者の地位をもっと向上させたい」と意気込む。「優秀な人材を多く育てることで林業従事者の活躍の場は広がる。肉体労働が基本だけど、林業にまつわる頭脳労働の部分もちゃんと担える人材を増やしたいんです。そのためには森林の生態系システムや、人の営みと環境保全の関わり、木材生産以外の林業の役割なども幅広く学ぶことが必要で、林業アカデミーならそれが出来そうだなって。日南町は今、町を挙げて森林教育と林業教育に取り組んでいるでしょ。その姿勢が揺るがない限りは、俺はここにいますよ」安全で、稼げて、やりがいのある林業へ。日本の林業界を日南町から変えていく。その可能性を信じて、二人は今日も森へ入る。



(写真)にちなん中国山地林業アカデミー

また高木さんも、鳥取大学と大学院で学んだ研究者。生態学をベースに、自然を活かした産業振興や里山保全にまつわる研究に長く取り組んでいる。大学卒業後は自治体職員、青年海外協力隊、岐阜県の森林組合で現場管理の事務方を経験。そして大学院に復学して研究を再開した頃、アカデミーの講師を探していた小菅さんのスカウト(?)に遭遇し、恩師の勧めもあつて講師を引き受けた。「アカデミーでは、現場作業の全般を1年かけて実習し、理論的な部分を大学の先生の講義で補強します。カリキュラムはかなり充実していると自負していますけど、初年度と2年目は知名度が全く無いので学生募集に苦労しました。でも徐々に名前が浸透してきて、最近では定員以上の応募がありますね(小菅さん)林業を志す若者が、日南町を目指して集まってくる。開校4年目を迎えた林業アカデミーは、少しずつだが着実に、移住者を引き寄せる吸引力に なっているようだ。そんなアカデミーを支える小菅さんと高木さんだが、二人の場合、日南町との「なれそめ」はまさにご縁。やりたい仕事に邁進していたら偶然ここに繋がった。研究や仕事が忙しいため、住民との交流や地域活動に参加できる機会は少ない。そういう意味では町との関係はドライだ。やりたい仕

移住・定住支援

日南町は移住・定住に関して様々な支援をご用意しております。

詳しくは日南町役場ホームページまたは山里Loadにちなんに電話でお問い合わせください。

●電話でお問い合わせ 一般社団法人 山里Loadにちなん TEL:0859-82-1715

営業時間:午前8時15分～午後5時 定休日:年末年始

E-mail:info@load-nichinan.jp <https://www.load-nichinan.jp/>

●日南町役場ホームページ(地域づくり推進課)

https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakuka/koryu_iju/index.html



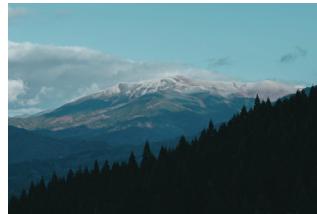
日南町 移住定住

主な名所・施設



『福万来ホタル乃国』

日本最大規模のヒメボタル観賞地



『大倉山』

中国山地では珍しい、美しい独立峰



『日野上銀杏』

樹齢100年超、廃校に残る大きなイチョウ



『道の駅 にちなん日野川の郷』

食事・買い物・イベント開催など、町の中心地



『聖滝渓流』

入って遊べる、大小4段からなる聖滝



『石霞溪』

四季折々の景色が楽しめる景勝地

生活環境



自家用車

自動車は1人1台必要です
雪道対応車種推奨、
また冬期は冬用タイヤが必須です



ネット環境

光インターネットサービスが
利用出来ます(有料)
※一部エリア外がございます



気候

1月の平均気温は氷点下~5℃程度
平均積雪量は1メートル以上
8月でも朝夕は涼しく平均20℃前後

※2023年4月1日現在の状況です。詳しくは山里Loadにちなんまでお問い合わせ下さい

日南町空き家情報活用制度 『空き家バンク』



まずは『空き家バンク』で気になる物件を見つけましょう!

町が情報の提供や関係者との連絡・調整は行います。

町内の賃貸・売却ができる空き家を紹介しています。古民家を改修し、理想の家づくりを目指す方や、畑作りをしてみたい方などには特におすすめです。山里Loadにちなんは民間住宅の賃貸や売買に関する交渉・契約に関与することはできませんが、情報の提供や関係者との連絡・調整は行います。

空き家バンクはこちらから <https://www.nichinan-life.jp/house/>

日南町 空き家バンク



日南町チャレンジ起業 地域おこし協力隊(起業・半域型)

日南町で起業してみませんか?

日南町では、暮らしている人間では気づきにくい日南町の地域資源を活用し、まちの活性化・魅力発信に力を貸していただきながら起業を目指す、「日南町チャレンジ起業地域おこし協力隊(起業・半域型)」を募集し、まちの魅力を引き上げることを目指しています。詳しくは日南町役場ホームページをご覧ください。

https://www.town.nichinan.lg.jp/soshikikarasagasu/kikakuka/shushoku_koyo/4704.html

日南町チャレンジ起業



平日開催・予約制 オンライン移住相談

移住に興味のある方はお気軽にご相談ください。

遠方の方でも気軽に移住相談が出来るように、平日限定・予約制となりますが無料オンライン移住相談窓口を開設しました。移住を実行するためのサポートツールとしてぜひご利用下さい。※通信費は自己負担になります。

詳しくはこちらから https://www.nichinan-life.jp/online_consultation/

日南町 オンライン相談

